

会 議	田川市協働のまちづくり市民検討会議（第2回）
日 時	平成26年6月2日（月） 18:00～20:10
場 所	田川市役所1階 大会議室
公開又は非公開	公開
	（委員） 秋吉 亘、井上 雅美、大場 恵美、佐々木 さゆり、鈴木 栄子、 平田 繁子、渡辺 一廣、松嶋 義秋、原田 清隆、佐藤 利幸、 武井 晋、石井 美登里、南 博、大森 敏宏、二場 孝宜
	（執行機関） 安全安心まちづくり課 課長 大原 一義、課長補佐 手嶋 伸久、 係長 清水 礼、主事 渡辺 阿津子、永野 陽輔
傍聴人員 （公開した場合）	0人
議事・協議結果	
会議次第内容	1 開会 2 委嘱辞令交付 3 新委員自己紹介 4 事務局紹介 5 議題 (1) 平成26年度NPO・ボランティア団体との協働事業計画一 覧 (2) 法令・条例に基づき設置される審議会等一覧表 (3) 『「協働のまちづくり」に期待すること』について (4) アンケートについて 6 その他 7 閉会
審議の内容	
開 会	（会長） それでは定刻となりましたので、ただ今から田川市協働のまちづくり 市民検討会議の第2回の会議を始めさせていただきますと思います。 第1回が2月の頭の方にありましたので、4か月ほど間が空いてしま いましたけれど、今後は当初にお示しした2か月に1回位のペースとい うので引き続き検討を進めていくことが出来ればというふうに考えて います。 それでは、お手元の次第に基づいて進めさせていただきます。まず次 第の2の委嘱辞令交付ということにつきまして事務局からお願いしま す。
委嘱辞令交付	（事務局） それでは、みなさんこんばんは。非常にお忙しい中集まっただき まして、ありがとうございます。 区長会から選出いただいております委員が区長を退任されました ので、今回より新しい委員さんが選出されています。 辞令につきましては、既に委員のお手元に配付させていただいており ますので、交付式につきましては誠に恐縮でございますが机上配付とい

	うことで、辞令交付に代えさせて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。
委員自己紹介	<p>(会長) それでは、次第の3番の新委員自己紹介ということで、今回新たに委員になりました委員のほうから、ひと言自己紹介をお願いいたします。</p> <p>(委員) まちづくり市民検討会議の委員になりました。これから勉強してお役に立ちたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p> <p>(会長) ありがとうございました。それから前回の会議を欠席されました委員からも一言ご挨拶のほういただければと思ひます。</p> <p>(委員) 前回は予定の方が先に決まっておりましたので、参加できませんでした。今日初めてですけど、お役に立てるかどうかわかりませんがよろしくお願ひします。</p> <p>(会長) 両委員ともありがとうございました。</p>
事務局自己紹介	<p>(会長) それでは、次第の4番の事務局紹介について事務局の方からお願ひをします。</p> <p>(事務局) 今年の4月から人事異動に伴いまして、安全安心まちづくり課の課長になりました大原と申します。よろしくお願ひします。私の左側から今回の異動で来ました手嶋補佐でございます。残りの3人は引き続きの清水と渡辺と永野です。よろしくお願ひします。</p>
<p>議 題</p> <p>(1) 平成26年度NPO・ボランティア団体との協働事業計画一覧</p> <p>(2) 法令・条例に基づき設置される審議会等一覧表</p>	<p>(会長) それでは次第の5番、本日の本題である議題の方に入っていきます。まず、議題の(1)と(2)は一括して扱いたいと思ひます。この部分について事務局の方からお願ひします。</p> <p>(事務局) 「平成26年度NPO・ボランティア団体との協働事業計画一覧について」(資料1・2)を事務局から説明</p> <p>(会長) ありがとうございます。事務局にまず確認なんですけど、この資料(1)と資料(2)は、田川市でどのような協働に市役所として取り組んでいるのかという現状報告の資料ということでよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局) はい、そうです。</p> <p>(会長) 分かりました。それでは、これはどちらかという議題というよりは現状に対する報告ということかと思ひますけど、何かこの資料(1)と資料(2)に関連してご質問等あればお願ひします。</p> <p>(委員) 毎年同じようなことをしているが、事業効果を検証しているのか。</p> <p>(事務局)</p>

事業によっては、実績報告書を提出していただき翌年改善できるものは改善していつている。

(委員)

助成する事業については、団体からの申請を審査して助成して、その事業が終了したら報告書を出してもらっているのか。

(事務局)

そのとおりです。

(会長)

事業内容につきましては、今後も疑問点があれば事務局にお尋ねいただければと思います。

(3) 『「協働のまちづくり」に期待すること』について

『「協働のまちづくり」に期待すること』について (各委員からの発表)

(会長)

この議題が、第2回目の会議の中心部分になると考えています。前回の会議で、協働のまちづくりに期待することについてということで、委員の皆様から発言いただきたくとして私の方から提案させていただきました。

なぜかという、協働のまちづくりについて、今後進めていく、あるいはそのために何らかの条例だとか、新たな仕組みが必要であるか検討していくうえでは、それぞれの委員の皆様がそもそも協働のまちづくりにどういう期待をしておられるのか、ということをお話ししていただく必要があるだろうと、また一定の共通認識をこの会議の場で作っていく必要があるだろうというところをお願いしたところであります。

基本的には協働のまちづくりに期待するというと大上段に振りかぶった形にはなっていますが、要はどのような田川であってほしいか、どのような地域社会であってほしいか。あるいは、自分が田川の地域社会がこうあってほしいなという将来像の実現にあたって、市民の皆さん、地域の色々な団体、市役所とかが、どのような形で役割分担をしたり、一緒に力を出したりしていけばいいかなということについて、それぞれの委員の皆様のお考えということでお話しいただければと考えているところでございます。

また、場合によっては「協働というけれど、そもそもこういう事はよく分からない」と疑問に思われることも各委員の話に含まれてもいいのかなと思っております。こういうことで、各委員に発言していただきますがよろしいでしょうか。それでは、座席順に発表をお願いします。

(委員)

皆さん、こんばんは。資料を用意していますので、それを用いてお話しさせていただきます。

協働のまちづくりに期待することについては、今までの市役所、いわゆる行政が市民サービスをするのと協働であるというのは、今までの形態が変わっていくと思います。今までは役所に全部任せて、市民がどうするかというと大体批判的な立場で、今まで従来ずっと昭和時代は進んできたのではと思います。

今後は行政と市民と両方で市政を作っていくということですから、まずは相互の役割と責任をはっきりさせるのが必要だと感じました。

それから目指す田川としては、市のマスタープランもあります、人に優しく、自然豊かで安全で安心して暮らせる田川市が一番いいんじゃないかなと考えました。

それでは、市民、市民活動団体等と行政の役割分担について話します。市民の役割ですが、今まではほとんど行政というのは市民サービスというのは、役所にお任せでした。これからは、市民一人一人が自分達で作るということで、まず身近な隣近所の活動等に取り組んでいって市の方

に提案するなり参画をするなりというのが大事だと思います。

次に市民活動団体やボランティア団体の役割等については、市民よりも今度は責任が重くなると専門的な知識とか技術とか積極的に行政と市民の方にサービスをしていただいたらどうだろうかと思います。

それから行政これには市職員と市議会議員も含まれると考えますが、役割と執務に関しては協働のまちづくりに関する情報を市民に積極的に提供していただいて市民の参加、協働の機会を積極的に提供することが大事だと思います。

それから市の権限になると思いますが、市の責任において公正誠実に職務を執行していただきたいと思います。これが一番重要だと思います。

地域コミュニティに関してですが、私も区長をしていた時に感じたのは地域住民の協力が少ないということでした。それと昭和の20年代、30年代は子供会、青年団というのがあり、みんなでやっていました。

それが今は隣近所に誰がいるか分からないという状況で、区長をやった時は寂しく感じました。

まちづくりに期待される効果として、市民にとってはまちづくりの関心を高めていただいて、それに伴って市の方に参画、行政をどうするか市民サービスをどうするかと一緒に取り組んでいただく認識を高めていただく効果が出てくるのではないかなと考えています。

それから市民活動団体、事業者等についても市民の為にやってくれているとか行政の為にやってくれているとかと団体に対する市民の認識とか変わってくるとNPO法人とかの活動が活発になるのではと考えています。

最後に市と議会にとっては、市民のニーズを的確につかんで、きめ細かな公共サービスを提供することができるようになると思います。

あと、まちづくりの担い手は今までは市の職員がやってきたと思いますが、協働のまちづくりということになりますと、やっぱり市民、市民活動団体等の育成につながると思います。

また、もう一つはこれまでと違って、市が99%リードしてきたのが変わって市民が半分、行政が半分というようになってくると思いますけれども、それによって市、市の職員等の認識が変わればいいのではと考えています。

相乗効果としては、今まで述べてきましたけど、私の考えですべて良しと、いいところみんな出てくれば万々歳と考えています。以上です。

(会長)

ありがとうございました。それでは、次の委員、お願いします。

(委員)

期待する部分と外れる部分もあると思いますが、私の考えと想いを話したいと思います。

まず、まちづくりというのは、基本人づくりだと思います。参加という面では、行政が講座とか開いた場合、市民も参加という形で出来ていると思うのですが、そこから参画の方に移す必要があると思います。

参画をするためには、行政と市民とが共に作るというのが初期段階から出来てほしいというのがあって、行政はそのまま市民に団体に丸投げではなく、市民も行政任せにならないようにしていくことが大切ではないかなと思います。

行政だけではできないこと、また民間だけではできないことがあるので、立場を超えた議論とか田川についてみんなで学ぶ場というのが大切だなと感じています。

昨年度、私達の団体のほうで「15年後の田川」ということで、講座を開きました。小学生、私達の団体、行政の方や学校の先生も参加があり、他の町の方がファシリテーターというか進行役として、講座というより話していくという場だったんですけど、立場を超えて田川について話すことが出来て、最後にはまず自分が出来ることを発表して終わったという話だったんですけども、色々な立場の人と色々話が出来たことは

すごく良かったし、自分自身も市民として自分の地域のことを知ることが出来たなと感じました。

そういうふうに、行政と共に初期段階から共に作っていくというのが大切だなと特に感じました。やっぱり、横のつながり、行政の方は色々な課がありますし、団体の方も色々な団体があります。その団体だけとか、その課だけで終わるのではなく、横のつながりということ大切に、また外部からの意見をそれぞれが受け止めながら、協働のまちづくりとかまちづくりをしていけたらいいなというのを感じています。

私自身が、田川市外出身なんですけど、やっぱり田川市に嫁いできたときには、えっ田川市にと周りからすごく言われました。でも実際に嫁いできてすごく田川のいい所もあり、コミュニティも衰退している地区もあるかもしれませんが、他の都会に比べたら、まだまだ優しいところもあるとすごく感じています。

私もサークルの方も子育て中のママと接するママとのつながりが多いのですが、ママ達からも市外から来て子育て支援についても、田川色々あるよねというふうな言葉を聞くとすごくうれしく感じるので、そういういいところをちょっと伸ばして、一緒に協働でいいまちづくりができたらいいなと感じています。まとまった話ではないですけど以上です。

(会長)

ありがとうございました。それでは次の委員さんお願いします。

(委員)

私も実は2年前にご縁があって田川に引っ越してきたのですが、やはり先ほどの委員さんと同じように「何で田川に？」と言われました。

私は毎週末田川に8年間通っていて、この地域が好きで自然があって、夕方とか歩いていると小学生があいさつをしてくれたり、都会ではない暖かみとか人間関係があると思っていました。すごくいい町だよと言っていたのですが、実際住んで2年くらい経って、そうではない部分もだんだん見えてきました、正直に言って。

そんな中で、若い世代30代40代の人達が意外と市政に関心が薄い方が多いなと感じます。

市政は年配の方が色々何かしているんだろうという感覚しかないと思います。確かに、議事録を田川市のホームページで見ることが出来るんですけど、そうではない部分への発信をすることで、もっと30代40代の人達に、市政に関心を持ってもらう、こんなことをしているんだというのを知っていただくことから、やっぱり協働というのは始まると思います。

協働ということを知らない人が多いと思います。だからSNSを使ったりして、市のホームページ以外の所で、もっと若い人達に関心を持ってもらえるような取り組みをすること。何で30代40代かという子育て世代ですよね。その子育て世代の考え方が変われば、子供達が変わるんです。子供達が変われば、田川市の将来はずいぶん変わると思います。

高齢社会になっていきます。実際、田川に引っ越してきて食育の仕事をしているので、現状を知りたくて誰に聞こうかと思いつ産婦人科とか助産師さんを調べたところ個人の産婦人科が田川市には1軒もない。助産師さんは1軒。田川市内で出産しようと思うと田川病院か田川市立病院でしか出産が出来ないという現状です。その限られた場所での出産だけで、妊婦さんが安心してこの土地で子供を産んで育てると思うかどうか私は不安になりました。

そういうことで、どんどん若い人達が生外に出ていってしまうと、高齢者だけが残ってしまって老々介護という問題も発生してくると思います。高齢者を支える若い人達を育てるためには、まず関心を持ってもらうために、発信方法の多様化が必要だと思います。意識を変えていたきたい年代の方の注目を引くという、この間の会議であった宗像の「ひとづくりから」というのに共感できて、その人を作るのはどこから

始めようかと考えた時に子育て世代から変わっていただくことが大事だと思いました。以上です

(会長)

ありがとうございます。では次の委員をお願いします。

(委員)

私が協働のまちづくりに期待することは、お二人とは違って私は生まれも育ちも田川なので、逆に仕事の関係で東京や大阪に行って福岡の田川ですというちょっと引かれてしまうのが寂しいというのが現状です。

そこで、田川市は何が問題なのかなと色々なものを市政だよりとか見させていただいたのですが、やはり雇用問題とか少子高齢化とか市の財政が一番危ういのかなと思っていつも見ているんですが、私達市民一人一人が直接は解決できないこともあると思っていましたので、前回の会議の資料で第5次のまちづくりについて市民に分かりやすい具体的なルールを作りなさいというのが諮問の文章に入っていたときにもっともだなとすごく感じました。これだったら私達が参加しやすいようなルールを作っていたら市民が少しは参加できるかなと思います。

先ほど、事務局の方が説明いただいたこの色々な取り組みについて、私はNPOの事務局長をしているのですが、はっきりいうとさわやかまちづくり提案事業のご案内もくるのですが、なかなか業務が多忙のため企画することが出来ないんです、団体のNPOでは。というのが田川市さんの場合は、NPOがどこに何があるのか、NPO自身のネットワークがないので、そこがちょっとひとつ問題なのかなと思います。

一応、全国の市民福祉団体全国協議会の方に入っているので、その活躍を見るとネットワークが皆さんすごいなと感じました。

せっかく協働するのであれば市民の方が出るということと、ネットワークをきちんと作っていただけたらと感じます。それと市民と行政間できちんと協働するなら、ルールを決めていただきたいと思います。

行政主導で入られると市民の方達には垣根が高くて、特にNPOの私達みたいな小さいところは、意見が非常に言いにくいところもあります。

市民と行政が一緒に行うのであれば、行政だけでは難しかった問題を市民が解決して、市民だけではどうしようもならない問題をお互いに提案しあって、地域のニーズに合った特に小さい地縁のコミュニティに合った柔軟な活動が行われるんじゃないかなということで、私は協働のまちづくりが必要なかなと思っています。

そして、これはちょっと外れるかも知れませんが、私はNPO団体を12年間やっていますが、私は介護、高齢者介護の方です、27年度に大きな改正がありますけど、それもまちづくりの中でマンパワーとして使ってくださいということを言われていますので、そこも少しリンクして考えられるようなまちづくりがいいなということもひとつ期待します。

私は、昭和38年生まれなので繁栄している田川市を知らず衰退した田川市しか知りません。だけど歴史をみると炭都といういいイメージがあるので、まちづくりをするのだったら、このイメージを活かして元気な町になるようなまちづくりの条例を期待したいというのが、私の期待のことです。以上です。

(会長)

ありがとうございます。では次の委員をお願いします。

(委員)

先ほどの委員とも一致するのですが、安心安全なまちづくりをするためには私達に何ができるだろうかと考えましたが、日本には昔から寄合の文化というのがあると思います。

私達の地域でも、先日公民館活動の一環として、歩け歩け運動という

のを行いまして、隣の町に10キロのコースを地域の皆さん、障がい施設の子供6人と計50名くらいで歩いてまいりました。5月には、地域の神幸祭、地域の運動会、文化祭、水利組合の会議及び農業の寄合なんかで公民館を使用しています。

私達自身が社会に参加していくために、場所だとかイベントを計画する必要はあるんじゃないかと思えます。

国も役所もお金がないとおっしゃいます。そこで箱モノを作るのではなく、地域の公民館だとか、隣保館、空きスペース、役所のホールなんかを利用して、皆さんが元気に集まる場所を提供すべきだと思います。

役所の人だけでは、やっぱり手が足りないでしょうから、私達市民が旗を揚げて地域の特産なんかを考えながら、老人の多い田川地区が、介護保険をお手伝いさん代わりに使うのではなくて、やっぱり元気でみんなが集まる、横のつながりを持つことが大切ではないかと思えます。

そのためには、やっぱり指導する指導者が必要だと思います。各審議委員の皆さん、各委員会の皆さん、企業の方、それから公民館活動等で元気なおばさん達、それから体育協会の皆さんを活用して色々なイベントをしてはどうかと思います。

そうすることが、田川地域が元気に活動する介護保険の高い地域を解消する安心安全なまちづくりになるのではないかと私は考えています。以上です。

(会長)

ありがとうございます。では次の委員をお願いします。

(委員)

私は行政側から参加しておりますので、意見という形よりも現在市で行っている協働、先ほど事務局の方から紹介がありましたけれども、それを分類するような形で考えてみようかなと思いました。

今、田川市において協働で行われているものを分類していくと6つの形が見えました。

その1つ目はイベントの開催です。皆さんも思い浮かべられると思いますが、有名なコールマインフェスティバルです、炭坑節祭り、これは実行委員会が運営していますが市民と市、行政が一緒に入って参画してその実行委員会で運営している形です。それから伊田の川渡り神幸祭のときにその横でまつり in 田川というステージを行っていますけど、これも同じ形です。そういうような形でイベント開催を一緒にしているという事例がまずひとつあるのかなと思えます。

それから2番目ですが、市民活動、市民が自主的に行っている活動に市が参加しているものという例があると思えます。それが、まずは市内いっせい清掃です。それから公民館祭、こういったものも全て市民による協議会であるとか市民による実行委員会、これが自主的に行っているもの、ただその中のその委員会なり協議会の事務局を市がお手伝いさせていただくという形で進めています。

それから3つ目ですが、計画の策定です。例えば、皆さんにも前回お配りした第5次総合計画の冊子ですが、この第5次総合計画は行政の計画でもありますが、その内容については市民の皆さんの意見を十分に聞いた上で策定をしています。その聞き方としては、市民の皆さんにワークショップという形で意見交換、意見を出していただく会を第5次総合計画の場合は8回開催しています。8回開催しまして皆さんからこんな田川になってほしいという意見を十分にいただいた上で、その意見を反映させて総合計画を作ったという経緯があります。

それから最近では、伊田の駅周辺等を整備していくということで都市再生整備計画というのを作りましたが、これについても、近くの地域住民に集まっていただき、4回ワークショップを開催して、その意見を十分踏まえた上で計画を作ったということがございました。これも協働の形かなと思っています。

それから4つ目ですが、これは市民活動に助成をするもの、先ほど使にくい形になっていると意見もありましたが、市民活動、先ほどの事

務局からの話の中でもありましたが、市民が自ら実施する活動その中でも公益性のある事業、こういうのを実施する場合には市が助成しましょうというような形があります。

それからもうひとつ校区毎に進めていただいていると思いますが、自主防災組織の設立ですが、校区毎に今自主的に設置をしていただいておりますけど、そこに市の方から避難用の資材であるとか機材を提供するというそういう形で市民活動に市が助成するという形です。

それから5つ目ですが、地域活動への市の参加これは校区活性化協議会、8校区ありますが、そこに市の職員一人ずつ地域の担当という形で参加をして、これは色々な自治体でやっています。田川市がそこまで進んでいるかということそこまではないかもしれないが、担当職員が一人入って、その地域のイベントと一緒に参加して出来るところで支援をするというような形のをいま始めているところです。

それで6つ目ですが、協働といえるかどうか分かりませんが、協働の前の段階なのかもしれませんが、意見の提供、これは市役所ではさわやかご意見箱というものを設置しております。さわやかご意見箱でするので、箱の形で紙に書いたものを入れていただくものもあるし、ホームページ上パソコンから送っていただく、それから手紙で寄せていただく色々な手段がございますが、そういった形で市政に対する提案や意見を募集するというものでございます。ただ、これは実際には苦情、個人的な要望が多く占めています。

そういうことがあるので、市としては非常に良かった提案については表彰するという制度を設けました。昨年度に始めて表彰をしたのですが、その内容を紹介させていただきますと、そこで表彰されたものは2件ありました。

1つは彦山川を有効に活用してはどうですかという意見、それからもう1つは伊田駅をもっと人が集まる施設に生まれ変わらせましょうという意見、その2つの内容が良くて最優秀賞とまではいかなかったのですが、優秀賞ということで表彰させていただきました。

その意見をもとに伊田駅は新聞報道に出ています、伊田駅を買い取ってテナントを入れるなりそういうことをしていきましょうと形に発展していきまして、彦山川の意見についても今、国土交通省、県土整備事務所、地元の区長、それから大学生にも入っていただいて彦山川をどうしていけばいいか夢プランという将来的にこういうものに発展してほしいという絵を書く夢プランというものが始まっています。

そういう形で意見をいただいたことに対してそれを基に市政を進めていくというようなことが協働といえるかどうか分かりませんがそれを6番目に分類させていただきました。

一応、協働という考え方は定義が定まってないところがあって、この6つの分類は決して正しいものであるとは思っていないのですが、私が考えたところでは、こういうところが分類できるかなと報告させていただきました。

(会長)

ありがとうございます。では次の委員をお願いします。

(委員)

私からは、地域のまちづくりに期待することを、順を追って考えを整理させていただきましたので、お話ししたいと思います。

私は田川で生まれ育ち、田川市で勤務しております。私生活の中では子供がいて地域の組長を今年度しております。そういった経験の中からお話ししたいと思います。

まず、協働のまちづくりに期待することとして、それは協働のまちに期待することは、どのような田川、地域社会になればいいですかということですが、究極で言うと安全で安心な生活と先ほど他の委員さんからお話がありましたが、やはりみなさん安全で安心な生活ができるのが、一番の究極だと思います。

それが実際具体例としてどのような形になるかということ、例えば子供

が一人でもまわるとか、高齢者が一人暮らししても安全だということでは地域の人達が見ている又は見てくれているという状態であると思います。これを言い換えますと人と人とのつながりが良好に保たれている関係、交流が上手くいっていることだと思います。

そこで、この人と人とのつながりの交流が良好に行われるその手法が、この協働によるまちづくりではないかと思えます。

人と人とのつながりが良好にされるその方法とはなにかといいますと一番根本的なところでいうと、同じ目的を持って一緒に取り組むということが一番基本的な考え方でないかなと、これが協働を進める大切なポイントだと思います。同じ目的を持ってということですので、目的の共有化であったり、一緒に取り組むというところでは組織化であったり、参加方法であったり、仲間意識の醸成であるとか、チームワークこれは役割分担になると思いますが、そういったキーワードがこれからの私達の協議の中で大切になっていくのではと思います。

そこで、協働における市民、企業、様々な団体、議会、行政等の役割がどのようなものになるのかということをおさえていかなければいけないと思うのですが、ここでは端的にそれぞれの団体の役割について申し述べたいと思います。

まず市民の方は、第一に地域社会への参加というのが大切だと思います。言い換えれば、地域への無関心を無くすというのが大切だと思います。これは行政への参加だけではなくて、地域社会、あとでお話しさせていただきませんが、無関心ではない自分を作るというのが大切だと思います。

次に企業ですが、企業には未知数、幅が広いと思います。例えば、企業の特徴とか製品を活かして、地域に貢献する場合もあり、これは地域に利点があると思いますが、地域貢献でボランティアとなりますと中々企業に利点があるとは言い切れない面もあるのかなと、それは利点にできるような企業が増えれば、田川市のまちづくりには非常に有力な団体になるのではないかと考えています。

また、その他さまざまな団体はそれぞれ団体の設立に目的があると思いますので、その目的に合わせた中で参画いただけるのが無理のないまちづくりの参画だと思います。

また、議会、行政になりますと、議会でいえば政策提言、議決だけではなくて、提言を市長部局の方にいただいているところですし、行政はこのような会議にございますように協働の取りまとめ役や調整役を務めるべきだと思います。

そこで今、基本的な考えをお話しさせていただいたのですが、この協働に関して疑問に思うこととして、協働はまず自分を基点にすれば自分の家があって、お隣さんがいて、そしてご近所さん、いわゆる組、そのあと地域社会、田川市でいえば自治会、区、そのあと田川市全体という拡がりになっています。というように地域社会というのは、非常に多重構造と色々な関係が複雑に絡み合っています。

まちづくりは、私が言いたいのは対行政だけではなくて、市民と市民とのつながり、地域の中のつながりも非常に大切なところなので、私達が協働に関して検討する際にどの段階の協働を指すのか、それとも全体を指すのか、そういったところも明確にさせていかないといけないと思います。

また、この地域には学校であるとかスポーツクラブであるとか、祭りとか色々な枠を越えた団体が複雑に絡んでいますので、そういったところもどのように整備するのかというのを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

もう一つ、地域社会の最近の問題というのは、ライフスタイルの変化が、この住民参加への阻害要因の一つとして考えられています。具体的にいうと共働きや単身世帯、高齢化や塾通い、習い事とかです。皆さんの現在のライフスタイルというのが非常に複雑化して、それは行政への無関心につながっているかと思えます。

今回、これからの協働の在り方というのは、そういった阻害要因の一つ一つを解決するためには、例えば意外性であるとか逆転の発想とかそ

ういうひねったような考え方が必要になると思いますので、非常に難しいのではないかと考えています。

無理は禁物だと思います。協働を行う際に無理をすればみなさんの参加の障害要因になりますので、みんながうなずけるものを私達が代表して考えていくというような方針がいいのかなと考えています。

そして今言いましたような協働には市民の自発的な自主性、自主参加が必要となります。これは逆にいうと強制が出来ないということだと思います。自主性頼りとなりますので、それだったらその自主性はどのように生まれるのか、そのきっかけというのを考えていかなければいけないと思います。自主性を促す効果を期待される取組であるとか出来事とか、そういった基本的な部分と協働というものの関係について確認する必要があります。

きっかけの例でいえば引っ越しで田川に住み始めたという話をいただきましたけども、引っ越しであるとか、家を建てたとか、子供が小学校に入ったとか、子供会に入らせたいとか、神幸祭とかお祭りに参加しようとか、そういったきっかけ例と協働とが、地域の中の協働、まちづくりに発展していった、それが最終的には市の行政とのまちづくりと強くつながっていくのではないかと考えています。

最後に協働について、まだ定義がないので何とも言い難いのですが、例えば先ほどから市政に参画する権利の明確なものというんですか、皆さんから意見をいただいています、それを責務として捉えるのか、魅力として捉えるのかによって市民の皆様の盛り上がりも異なるものではないかと考えています。

やはり、魅力として捉えたいな、そうするためには何か決まり事を作ったとしても、それが意識づけできる手法というのを研究していかないとけないと思います。私達は決まりを作るだけでは、絵に描いた餅になりますから、皆さんがそれを見て、ぜひこれに参画したいとかこういうのがあったらいいねという魅力ですね、そうすると責任とか権利とか責務だけでは解決できないような所もあるのではないかなとそうに思っています。

いずれもちょっと難しい問題でありますので、皆様と今後検討を進めていきたいと考えています。以上です。

(会長)

ありがとうございます。では次の委員をお願いします。

(委員)

私は民生委員・児童委員の方から出てきていますが、民生委員の何人かと会長に今協働ということで、何か問題になっていないかを投げかけたところ、高齢者とか生活保護受給者とか経済弱者に関しては、行政とうまくいっている。

ただし、教育委員会絡み、子育て関係になるとどうしても個人情報、学校で止まる、児童相談所で止まるということで、地域の民生委員は児童委員も兼ねていますが、そういうところでは中々うまく動けないという現状があるということぐらいしか分かりませんでした。

ここでは、個人的な意見でということなので、どういうふうな田川であつたらいいだろうかということで、ずっと田川で生まれて田川で育って三代目と、どこに行っても東京に行っても大阪に行ってもどこに行っても色々な所に仕事関係で行きましたけれども、堂々と言っています。彦山川で産湯を浸かりとか言いながらやってきました。とてもこの町が好きで、誇りに思っています。何かと申すと、イメージとして先ほど田川の繁栄した頃を知らない、私も田川が繁栄していた頃は子供でしたが、子供ながらにそれは乱暴なおいちゃん達がありました。お風呂に行ったら女性でも刺青が入っていたり、でもみんな優しく、楽しい思いしか自分がないので、この町が大好きなんです。最後に言おうと思いましたが、イメージとしては、色々な方が色々表現されていましたが、昔、炭坑の長屋、カギをかける必要がなかったですね。本当に裕福かという裕福ではないんですけど伸び伸びと遊べて、お父さんお

母さんが一緒に夫婦で山に入るものですから、夜いないということがあるんですね、そうすると隣近所のおうちがうちでご飯食べるとか泊まりなさいとか、そういうふうな長屋意識というのは、田川の財産ではなかったのではないかなと、松原の住宅が潰れていくときに無くなっていくときに、とても寂しい思いをしたものの一人です。

協働というこの言葉のイメージに戻りますが、この言葉はここ数年頻繁に出てくる気がしています。私の校区の活性化協議会でも協働、協働といっています。

協働とはなんですかとお尋ねすると、委員さんが毎朝交差点に立って子供達を安全に送って渡しているのが学校との協働ですよと言われるんですね。だけれど、私は学校と協働という意識はあまりないんです。

なぜかといえば橋の工事をしますと、その時に子供達の通学路の順路が変わるという情報が、こちらには全く来ない。これ協働でしょうかね。それとか土曜日に授業が始まったと、それがいつあるのかわからない、朝窓を開けたら近所の子供が行っているからどうしたのという、今日おばちゃん学校よということバタバタ着てから飛んでいくとかですね。

そういうふうなのが、決して学校と私が協働しているような関係にはないだろうというふうに思います。協働というのは情報が共有化されていないと、うまく機能しないのではないかと思っています。

先ほど言いましたここ数年協働が叫ばれるようになったのは、もしかしたら間違えているかもしれないけれど、自治体も色々なことを引き受けすぎて、(もし市の方がそうだと思うならウンとうなずいて下さいね。)引き受けすぎて親方日の丸の体質がそのままこうあってあれもこれも全部自治体の方でやらなきゃいけない。(誰もウンと言わないかな。)という状況になっていて、片一方では権利意識、この道のここはどうしてくれるんだ、草刈どうしてくれるんだ、直してくれとかいう要望はどんどん上がってくる。そうじゃない、みんなの町なんだから自分の町を考えようよという自治体にとってもぎりの線できているんじゃないかなと、うがった見方をしております。

それは私達からいっても、当然納税している私達の町です、だから私達も本当は責任があるんだという先ほどから何人も言われているように、そういうふうな自立した市民でないといけないのではないかと、そこにやっぱり原点に戻るといえるかそのように思っています。

そういうふうなまちづくりをイメージした時にちょっとここで構造の変革というか、先ほど他の委員が仰ったように大胆な発想がいるんだろうと思います。

ただ、これには強いリーダーシップが必要なので、とてもいっぺんにはならない。だから少しずつ、つつみの穴を開けるみたいにして崩していかないといけないと思いますが、大きな面を田川市、田川市といって全体で考えるから上手くいかないけど、先ほど仰っていた地域、小さな自分の住む世界を考えれば、そこだけ自分で何かそれこそ、例えば一人暮らしのおじいちゃんの所にのぞきにいこうとか、そのようなことができるんじゃないだろうかというふうな発信をやっぱりした方がいいかなと。

うちの区は結構大きいんです。大きい区は、また他所の区を取り込もうと意見も出ています。近所にある区を。そうじゃないでしょうと話を何人かは言っています。

そうではなくて、もっと手厚く細かくしていくことが大事ではないかな。そこで見えてくる、子供も見えてくるし、一人暮らしの人も見えてくるんじゃないだろうかというふうに思っています。

それともう一つは、やっぱり人権意識を高めないといけないですよ。先ほど、この資料をいただきましたけれども、この審議会の中に女性はどれくらい入っていますかという少ないと思いますけど、女性の場合はここにいる委員さんも市の広報に載っておりましたけれども、女性の人材バンクに登録をされています。女性センターのセンター長が知り合いなので、ずいぶん前に男性は人材登録しているのかお尋ねしたことがあります。男性はないんだと。女性が少ないから、何とか女性を

見つけようとして登録をしてみると、この構図はなんでしょうねとお話をしたことがあります。

そういったところとか、うちの村でいってもそうなんですけど、例えば組長が広報を持ってきてくれたんですが、組長になるのを引き受けてくれる家が何軒かしかない。何軒とはなんですかと聞くと、男性がいる世帯ということですね。女性でもできるんじゃないですかという話をしました。それはやれないのではなくて、やれるように工夫していくべきではないかと話しました。だから、まだまだ固定観念が強いんだと本当に感じています。

それは市のなかでも、そして私達女性の中でもひょっとしたらあるかもしれない。あっラッキーと自分は飛ばされたから組長をしなくていいと。

そのような人権意識を高めていくというのは、ものすごく難しいことだと思います、日々の生活なので。

この辺から考えて色々な高いハードルがあるんだけど、まずはやっぱり将来の田川市といったら炭坑の長屋の風景が戻ってくるといいなと。長屋の構造は無いにしてもですね。

ああいう風景が地域の自分の身の回りにあるといいなと。夏なんか今ものすごく暑いんですけど、鍵かけて寝ないと一人暮らしだから開けて寝られないんですよ。父がいるときは網戸にして開けて寝ていました。そうすると夜涼しいんです。今は冷房しないと過ごせない時代になってきました。だから、ここが安心して本当に家で暮らせるかどうかというところもこういうところでないかなと思います。

解決されなければならない課題は、多いだろうと思いますが、まずはひとつは、この田川市協働のまちづくりが必要だとするならば、この中核になる司令塔をしっかりと立てないとこれは絵に描いた餅で何もならないということですね。

それと課題の中の大きな一つがそれで、もう一つは価値観を変えていく。

田川市は他所と違う価値観を持っていますよということではないかなと、例えば世の中の的には学歴尊重、学歴重視だとか職業、どこに行っているからいいねとか、それからお金があるからいいねとか、いうふうなことですけど、炭坑時代はお金がなくても幸せだったな、あの幸せ感は何だろうなともう一回戻ったほうがいいかなと、もっと大切なものがあるんだよというのを田川市が見つけきいたら、この協働というのは成功するんじゃないかと思いました。ちょっと、長くなりましてけれど。

(会長)

どうもありがとうございました。それでは、次の委員をお願いします。

(委員)

私は活性化協議会事務局として入っていますので、その面から述べたいと思います。

先ほど、別の委員からも出ましたけど市に8つの活性化組織協議会があります。これは文字通り今話題になっている協働のまちづくりの一環として今から16年前の平成10年に始まりました。

この現状と課題を見て、協働のまちづくりの未来像とかそういうものを考えていったらいいのでは思っています。活性化協議会をご存知かもしれませんが、校区8つの中学校区の中のあらゆる組織が加盟しています。区長さんを始めとして、公民館とか色々な組織が集まって基本は安全安心のまちづくりのために出来ることは自分達でやっていこうという組織です。校区毎にそれぞれ取り組んでおります。色々な活動をやっていっていますが、その成果は努力不足もあるしPR不足もあって残念ながら浸透していない面もありますね。

しかし市から補助金を支給されて、それを基に年間の色々な計画をそれぞれ8つの校区は、一生懸命やっています。

そういう中で、残念なことはどの地域も高齢化が進んでいまして、活動している中心が高齢の方ばかりです。仕事がある方は仕方がない面も

ありますけど、中々若い方は積極的に参加できていない面があります。それは、我々の責任はあるんですが、そういう悩みを抱えながらやってきています。だから、こういう協働のまちづくりの具体的な例の一つとっています。これをいかにこれから成果を上げていくか。そこで感じることは、我々自身の反省、課題もあります。ひとつ市民の要望としては、これは生涯学習課が担当なんですが、それこそ安全安心まちづくり課が掲げているテーマ、基本テーマを実際に校区でやっているつもりなんです。成果は上がってないかもしれないが。

そういう面で、市の方にも生涯学習課だけに任すのではなく、市を挙げてこういう活動をやっているんだということを色々な面から、側面から支援していただきたい。

また、広報も支援していただきたい。そういう取組があればもっと浸透していく期待もあると思っています。

さっき、子供の防犯の話が出ましたが、私は後藤寺で防犯パトロールを取り組んでいます。これは学校と連携して地域で高齢者が多いですが、取組を毎週月曜日やって一定の成果を挙げています。こういうのは中々目立たないんです。地道な努力を各校区はやっています。そういう面を何とか広めたいし、成果を上げていかなければいけない。

色々な反省はありますが、それこそ協働のまちづくりというのは、授業、勉強も大事ですけど、具体的な取組を如何にやるか、ここにかかってくる。市は色々な審議会とか、色々な組織とかあるんですが、残念ながらバラバラなんです。連携が取れていない。そこに問題があるのではないかと。そういう面の解決もぜひ考えていただいたら、期待できるのではないかと、そういう面で私から以上終わります。

(会長)

ありがとうございます。次の委員をお願いします。

(委員)

(区長を前任者から引き継ぎ、この委員会に出るのは初めてであるので)発表できる準備が何もできていないので、今日はパスさせていただきます。協働のまちづくり市民検討会議に参加しなさいということでしたので、何をする会議かなど。

結局は安全安心なまちづくりをするために、みんなで話し合いをしましょうということだと思っただけなんですけど先ほどから出ているように協働というのがよく分からない。どういう意味がまったくもってですね。

先ほど6つの分類とお話しされた委員がいたので、そういうことかなと思ったんですが、お話を聞いていたら、協働とはどういうことかなときっちりしたものが分かってないようなご発言だったような気がしますので、できればもっと分かりやすい名前に変えた方がいいんじゃないかなと思うのと、これからもっと具体的な話になってくると、色々提案することもありますけどもというふうに感じました。

(会長)

ありがとうございました。それでは次の委員をお願いします。

(委員)

私も区長をやっていますけれど、ボランティア活動の中から思ったことを話します。

まず模範となる活動、紹介すべき他地域の展開、それぞれの地域、地区が自分達で出来ることを進んでやれるような田川になればいいと思います。

行政に頼らなくても、出来ることはたくさんあると思います。田川市として少しでも節約して、市民と協力し地区、行政と小さな問題等も話し合いの場を作り、地区の問題等に積極的に取り組んでいけるような行政にしていくことが、必要と思っています。

例えば予算がないと活動しないのか出来ないのか、地区で問題が起きて予算がないから今期は出来ないとかですね。うるさい区長がいる地区

には早く取り上げて行動していることも耳にします。

そういうことではなくて、お互いの話し合いの場を持ってしっかり話し合うことが大切だと思っています。

次に地域での地道な活動を広報、行政が取材し拾い上げて知らしめるのが良いのではと思っています。年中行事を紹介するだけでは何ら進化がないと思います。私自身、ボランティア活動で、私の地区または他地区の草刈を4月から11月まで毎日行い、その中で地区の小学校にもお願いして、子供達とゴミ拾いをしたこともあります。多いときは30袋位出たことがあって、子供達は、えっ！こんなに散らかっているのというも昨年度ありました。

そんな中で、草刈清掃を回覧板で活動の参加をお願いしています。少しでも行政のお金を使わないで、自分達の地区だけでもいつも美しくきれいな町にいたいと心がけて実行していますが、活動への参加が少なく、後10年もしたら私達も高齢になり、出来なくなると思い何かいい方法はないものか考えています。

その中で田川市の広報に草刈や清掃をしている団体等を写真等で常に紹介して活動の参加のPRが出来ればいいと思っていますけど、そういうことも今後行政として広報としてやっていてもらいたいなと思います。次に田川市第5次総合計画というのがありますけど、行政からもこんな町にしたいという思いを発信するとともに、町を作り上げる作業を展開すべきだと思っています。以上です。

(会長)

どうもありがとうございました。次の委員、お願いします。

(委員)

皆さん、こんにちは。協働という言葉を中心に聞きながら知りませんでした。どういうことを意味するかというのを皆さん方の発表を聞く中で、少しずつ形成されているかなと考えています。

市政だよりにこの委員を求めますよということで応募しました。その時のことを紹介します。山本作兵衛さんの世界記憶遺産は素晴らしい業績だと思っています。それが主になって発展すればいいかなということをユネスコ認定の1周年の会議があった時に参加したんですが、ユネスコの文化遺産担当の女性の方が見えていまして言われたことが、原画を大切に後世に残してくださいと同時にそれを起爆剤にして地域を活性化してくださいというようなことを仰りました。

それで非常にたくさんの方が来館されていると聞きましたけれど、実際来る人の立場からしますと、新幹線を小倉で降りて日田彦山線に乗ると、汽車がものすごく古くてあまりきれいではない。新飯塚からも同様です。

それをなんとか協働になるかどうか分かりませんが、列車を新しいものに変えていただけないだろうかということを強く思っています。日田彦山線と後藤寺線という線がありますね。よそから来た人達がパッと見て分かるようにするためにカッコ書きか何かで山本作兵衛線とかね、世界記憶遺産線とかいうのを後藤寺とこちらの方に何とかならないだろうかというようなことを思っています。応募しましたら、委員になれた次第です。

それと安全安心というのが一つのキーワードになっただけで聞かされてきますけど、私の家に2回泥棒が入ったんですよ。決して安全安心ではないですよ。1回は息子が寝ていまして泥棒と格闘したんですよ。それであわてて逃げて行って、幸いにたまたまパトカーが通っていて捕まったということなんです。

長屋のお話がありましたけれど、昔は隣に行っても鍵とかかかっていなかったですよ。ところが今は必ずかけていますからね。やはり安全安心というのが、それが目標になれば、その反対が現実だということだと思います。決して安全安心ではないです。安全安心な地域になればという願いは変わりません。

私は猪位金小学校を卒業していますが、そこの校訓が4つありまして

勤勉、努力、協同、自治というんです。協同は民主主義の方向理念みたいな感じがしているんですよ。

改めて自由とか平等とかいう言葉を前面に出さなくても、この勤勉、努力、協同、自治、民主主義じゃないですか。ということをおっしゃって、これは120年くらいになるんですよ。

今更、協働ということが話題にならなくても、すでに120年前にこういう理念を掲げて実践してきた先輩達が住んでいるというふうに感じました。

それとどういう町になってほしいかということで、3月21日に田川まるごと博物館1周年記念フォーラムというのがありまして、そこに田川飛翔塾卒業生の主張ということで、14歳の子供達がどういう田川の未来像を描いているかということを発表されました。

ご紹介したいと思います。理想の町とはどんな町ですかと5班に分かれています。

1班「環境のいい町、住みやすいまち、便利な町、子供達がたくさん住んでいる楽しい町」

2班「明るくて人が楽しく平和な町、ゴミがなくて自然が豊かな町、バリアフリーになっているお年寄りに優しい町、気軽に来ることが出来て楽しめる町」

3班「高齢の人や子供達が住みやすいまちというだけでなく、外国の人達も安心して暮らせる便利なまち。人がたくさんいて地域の行事が色々あるまち」

4班「ひとりひとりがきちんとあいさつできるまち。笑顔があるまち。助け合えるまち。人が優しいまち。歴史や文化を尊重しているまち」

5班「昔からの自然が残っているまち。もっと活気のあるまち。安全なまち」

田川をみんなが考える理想のまちにするにはどうしたらいいかということで、

1班「田川の外から来た人にも、田川に来て良かったな、と良い印象を持って帰ってほしいので、まちで出会った人には必ず笑顔であいさつしたい」

2班「海外からも、田川に気軽に来てもらえるように、田川がすてきな観光地になったらいいと思う。だから、外国の人が来ても色々田川のことを説明できるように、田川の歴史や田川の色々なよいところ、当然、外国語も勉強して、田川の観光案内ができる通訳の人を育てたいと思う」

3班「空気をきれいにするために木を植えたり、お年寄りや障がいを持った方のために駅のホーム・スーパーやコンビニにエレベーターを設置したり、彦山川や中元寺川をきれいな川にして、鮭を放流したりしたい」

4班「お互いの良いところを尊重しあう。友達同士で上下関係を作ったりしない。悪いうわさをつくらない、流さない。人見知りせず勇気を持って、会った人に笑顔であいさつする。お互いに声をかけあって、住民同士が仲良くすれば、明るいまちになると思う」

5班「住民が協力することが大事だと思う。例えば、まちでの募金活動や、ボランティアでまちをきれいにする活動をしたらいい。そして、みんなで協力して、今日のような素晴らしいイベントや、まちのあちこちで観光客のみなさんが田川の良いいところを体験できるようなイベントをたくさん作ったらいいと思う」

非常に目が輝いた形で参加された中学2年生が発表されました。長くなりましたが以上です。

(会長)

どうもありがとうございました。では次の委員、お願いします。

(委員)

宿題のことを聞いていなかったなので、今皆さんのお話を聞いていてとても勉強になりましたし、その意見を聞きながら私もそうだなとかそ

ういうふうと同じように感じてらっしゃるんだとか思いながら聞きました。

最初に今日の雛形で予算まで書いていませんが、色々な審議会がありまして、こんなにたくさん事業を田川市もやっているんだというのを市政だよりとかでも見たりしているんですけど、あらためて表になって見るとやっているんだというのをはっきり実感としてというか、やっているけれども、その結果といいますかこういうふうになりましたと市政だよりで見るとか、ホームページをわざわざのぞいて見たりはしない限りは分からないなというのがひとつありましたし、私も下の子が大学生なので子育ても終わるんですけども、私も田川で生まれて育って田川で仕事しているんですけども田川は大好きです。人はあたたかいし、色々な方が言われていましたが、昔は事件があったりとかで、外で田川というと「田川なんだ、筑豊なんだ」と言われる意見も同じように感じることもあります。自分自身も田川市の看板のつもりで「田川はいいとこなんだよ、いい人もたくさんいるし、色々な町から来た人も集まってすごくいい町なんだよ」と、自分ながらに発信はしていきたいなと常日頃思っていますけど、市民の皆さん一人一人がそういう意識を持つのももちろん大事だと思うんですけど、やっぱり得意不得意もあるでしょうし、皆さん感じていらっしゃることも、今の意見を聞いてもたくさんなんですけど、生活環境も違うし今の環境も変わってきますよね、私も子供が小さいときは、保育園から始まって子供会、小学校の文化会と色々参加もさせていただきました。

子育てする中というのは、同じようなお母さん達と話す中では、もっとこうだったらいいよね、ああだったらいいよねという意見は色々な催しごととかあって顔を合わせる中で、色々な意見が出るんですよ。そういうところでどんなふうを感じているとか、意見は出るけれどもそれをどこに持っていけばいいかその時は分からない。

今は、割と子育てネットワークだとか協議会とかもずいぶん出来てきて、でもそういう方達と接する機会がないとどこにその意見を持っていったらいいのか分からないんです。そこで話して井戸端会議で終わっている状況が結構今も多いと思います。それから小学校になるとPTAの話も色々あるけども学校の中の話に終わったりだとか、中に市とか行政とかにつながっているようなネットワークがある場合は、たまに組み上げてもらって意見が通るようなこともあるかもしれないんですけど、そういった中でいく中学になると問題も子育ての問題も色々変わってきますから、やっぱり学校に出ないといけないと学校の中の問題すら分からない。会議に出てこられる方というのは大体メンバーも決まってきましたし、子供会のときでもいくらお声をかけても、出てこられない親御さんはずっと出てこられないし、子供さんだけが子供会も入ってないけど出てこられる状況とか、すごくお声はかけてもなかなか難しい、どうやってPRしていいのか、自分達でお声かけするしかないとか、色々な方々の悩みと共通するような部分がたくさんあると思うんですね。

実際に皆さんのこうなったらいい、あんなだったらいいという意見を聞いた中でみなすごくうなずけるんですよ。老人の方とかと接する、一人暮らしの方とかと接することも仕事柄ありますし、お一人で不安なんだろうとかヘルパーさん来ているからあれだけでも、隣近所も昔から知っている方がいるから倒れた時に見つけていただいた話を聞くことも市内に限らずですけども、郡の方にもいるし、問題は田川市だけではなくて、郡部とか都会の方にもやっぱり色々な問題はあると思うんですよ。

実際にいっぱい審議会がある中で、今回私達がいる協働のまちづくり検討会議というのが、どの部分をやっていたらいいのかというのが、今日話を聞いていく中ですごくやらないといけないことが、たくさんあると思うんですけど、どこに的をのぼったらいいのか、それを色々ある中で的を絞る協議会なのか、細かいことをやっていくのか。前回欠席したので理解してないので申し訳ないのですが、そこを知りたいと思ったのと、せっかくこういう場があって、私達子育てしてきた中で、今まで行政とは直接係わらなかった部分が、ここだったら行政の方と一緒に話

ができていくんだなとは思ったんですね。

実際に他の審議会もそうだと思うんですけど、行政の方とずっとやっているわけですから、例えば急患センターの分とか防災にしても、そこから辺りはその委員会で一応やっていただいているわけですね。だからこの委員会はどこをやったらいいかをお尋ねしたい。

協働のまちづくりに期待することについての宿題は、私が期待するのは今は自分を大好きなんですけどやっぱり田川市に住んでいる皆さんが、自分が住んでいる田川市をすごく大好きになると。

他の町の方に住みやすいのよと、どこがいいのと聞かれたときに自信を持って田川市のこういうところがいいと、例えば自然があつてとか、山本作兵衛さんにしろ本当に胸を張って言われる文化の事もありますし、昔ながらの人の温かさとか人のつながりがある地域もすごく残っていますし、そういったことも含めて、先ほど泥棒が入られたとか、私も耳にするんですが安全に関しては、時代の流れも若干はあると思うので、ある程度防犯に対しては自分達で守っていかなければいけないと思うし、見守りとかネットワークとか協議会の方々が地域で活性化協議会の方とかががんばっていただいているのを続けていただかないといけませんし、やっぱりもっとPRをしてほしいという意見もすごく分かりますし、取りまとめなくて申し訳ないですけど、どこをまとめてお話をさせていただいたらいいのかを質問になって申し訳ないんですけど、そこを明確にさせていただきたいなと感じたんですけど、そうですね、その中でせっかくのこういう場ですから、やっぱりお役に立ちたいとすごく思っているんですけど、実際に自分もある程度子育てしている間は参加して、お祭りだの何だのと参加していたんですけど、子供会から離れていってしまうと仕事の方に没頭しまして、地域の事にも仕事が先行して参加できなくなっている状態なので、すごく胸が痛いというかいけないなと自己反省を含めたところで考えさせられましたので、そういったところも含めて、この機会にぜひ何か参加してこういう事ができたというのが最終的に結果として、やっぱり一つでも二つでも残せるようにしていくのを、期待することと思いました。取りまとめなくて申し訳ないんですけど私の期待することとさせていただきますと思います。

(会長)

ありがとうございました。今のご質問については、後ほど回答させていただきます。それでは最後の委員お願いします。

(委員)

私もずっと委員のお話を伺っている中で、大体ほぼ私の言わんとすることは出尽くしたような感じがします。

私が一つここで皆さん方に言いたいことというのは、私は区長会からここに出ています。そういう中で田川市に100近い行政区がございます。その中で特に問題化されているのが行政区に入らない人、例えばそれぞれの区の自治体があるでしょ、そこに入らない人が結構最近多くなっている。そこで今、安全安心まちづくり課がこれのアンケートを色々取ってこの対策を区長会もやっております。それぞれの自治体で区に入ってもらおうと、そして共に協働で事をしてもらおうということで、中々色々な方法でアンケート調査を踏まえて行いますが、中々入らないのが今の現実です。

そういった色々な取り組みをする中でちょっと問題化することがあります。それはなにかと言いますと、同じ地域の中で例えば100件あるとしますよね、100件ある中で20件が入ってないと、この人達は全然行政区との関わりを持たないから色々なことに参加しないんです。そういったことを参加しないと自分達は行政区から離れた枠の外でおるということになる。

だから、もうすでに行政区でやる色々な行事については、その80人の人がやっているわけですね。だから後の20人というのは、ただ外から眺めている。私が心配するのはこの中に子供さんがいるわけです、20人の中に。

ところが行政区の中で育成会という部があるんです。そうしたら、行政区に入っている人と入っていない人の区別をどうするか、本来なら子供だから区別をしないで差別化しないでということもかもしれないが、金銭的なものが絡んでくるからそういう問題も出てくる。

そういったことで、非常に色々な面、街灯の面、防犯灯も行政区に入っている人が払っているわけです。入っていない人は払わない。だからゴミ箱の設置費にしても、田川市が半分出してその地域の行政区が半分出す。これも全部区の会費で賄うものだから、入っていない人は1円も出さない。だから1円も出さない中でその地域に住んでいるということは、それだけのそういった防犯灯とかゴミ箱についても恩恵を受けているわけです。そういったことが地域では問題化されているわけです。

だからそのあたりを解決しないとこれからの協働のまちづくりには、色々な支障があるのではないかというふうに思っています。だから今、私共区長会では田川市と組んで色々な取り組みをやって参加すると例えば田川市に住所を移して来たなら自分の住んでいる区に入ってくださいということを、市民課の窓口では言っていると思うんですよ。そういうことで、地域に来た時にはどうか地域に入ってくださいということで進めていきます。

ところが面白いことになぜ行政区に入らないのかというアンケートの1番が行政区に入ると役を持たされるというものです。

各地区では、役になる人を順番性でやっているわけですね。他所から来た人も順番性でやらなければいけない。

だから役員になってもこの地域のことは知らないから、役員になっても何も分かりませんというのも入らない要素の一つになっています。

そういったことを含めて、色々問題視するところがあります。

これを行政と地区の自治会が、協働でこの人達が入るような環境づくりとかそういったものを整理していかないと、今後色々な行事をするにしても支障を来すと思う。

そういったことで今一生懸命取り組んでいます。私も金川の活性化協議会の会長をしています。活性化は、田川市の色々な協働作業の中で、色々なことを取り組んでいます。それぞれ8校区ありますけど、8校区ともそれぞれ事業内容は違いますが主旨目的というのは大体一つですね。子供達の育成の為にということでやっております。

そういったことで、非常に田川市の活性化の事業は協働の精神というのがものすごく強いんですよ。金川にしても外部から見学に来るような状況にあります。

そういったことで、これから一番問題視されるのは行政に入る人と入らない人のこれを何とか取り組んですれば同じ一つの行政区の色々な協働作業にしても、スムーズにいくと思います。

そういったことを踏まえて、これから色々検討していただければいいなというふうに思います。

(会長)

ありがとうございました。皆さんから大変多岐にわたる意見を非常に熱心に発していただきまして、それこそボードに書ききれないぐらいたくさん意見を出していただきました。

本来であれば、今皆さんからたくさん意見を出していただいたのを集約していく作業というのをひとつイメージしていたわけですけども、時間の関係ですとか非常に皆さん多岐に渡ることをお話しいただいたので、それは会長と事務局の宿題ということにさせていただいて、私の方から改めて各委員のご発言のなかで私なりのポイントであると思った点について、改めて口頭でお話しさせていただきたいと思います。

大体、ホワイトボードに要点で書かれているところと同じかと思いますが、時間の関係もありますので、お一方二つとか三つとかに絞らせていただきたいと思います。

まずお一人目ですが、役割分担と責任を明確にするということで、それぞれの団体にとってもあるいは町全体にとっても大きなメリットがあるんじゃないかということで、人に優しく自然豊かな安全安心して暮

らせる田川市というものを目指して、それぞれが取り組んでいってはどうかということでお話をいただきました。

次の委員の方は、まちづくりは人づくりであって、現在の参加から参画をしていくと、共に作るというスタンスが必要なのではないかと、色々な事業とか政策とか取組とかでも初期段階から行政と市民が共に作っていくことが必要ではないかということをお話しをいただきました。

次の委員の方からは、市政の関心度が30代から40代という子育て世代を中心にやや低いのではないかとということで、人づくりという観点からそういった子供に影響力のある立場の世代の方により市政を知ってもらおう。協働ということの意義を知ってもらおうということが必要ではないか。そのためには発信方法を多様化していくことが必要ではないかということをお話をいただいたと思います。

次の委員の方からは、参加しやすいルール作りが必要であるということと市内のNPOさんあるいは色々な団体同士のネットワークが必ずしも十分な形ではないということで、このあたりが課題改善のポイントではないかということでお話をいただきました。元気なまちづくりにつながるような条例ができればということでお話をいただきました。

次の委員の方からは、地域の施設を利用して元気に人々が集まれるようなスペースを市民自ら作っていくといったことが必要ではないか。そこで自分達で色々なイベントに取り組んでいくことが必要ではないかということでお話をいただきました。

次の委員の方からは、市としての考えとか取組を6つの分類について説明をいただいたというものです。

次の委員の方からは、安全安心な生活が出来るということが究極の目指すべきところであって、人と人とのつながりが良好であるということが、協働のまちづくりなんではないかと。あと疑問点としてどの段階の協働を目指すのかといった疑問が出されたというところでした。

次の委員の方からは、協働のイメージとして炭坑の長屋のような地域になればということで、そういった長屋意識というのは田川の歴史的なつながりのある財産であるといったようなご提言をいただきました。一方で情報の共有化が今必ずしも十分ではなくて、そこが情報の共有化がなければ協働というのは機能しないといったようなお話、あるいは人権意識を高めるということの重要性といったようなお話をいただきました。また、協働を進めるのであれば司令塔がしっかりしていなければいけないということで、それらも含めて田川固有のといえますか、他と違う価値観そういうもので取り組んでいくことが必要ではないかということでお話をいただきました。

次の委員の方からは、色々活性化協議会の方で取組をされていて、それが協働の取組みのその具現的なものではないかということでございますが、市への要望として生涯学習課が所管ではあるんですが、そこ任せではなくて、全庁的に市として取り組んでいくべきではないかということで、市の方への注文をいただいたところです。また、具体的に取組を実際にどうやっていくのかということが、やはり重要であるということでお話をいただきました。

次の委員の方からは、非常に重要なご指摘をいただいて、そもそも協働というのがよく分からないということで、分かりやすい言葉で示していくことが必要であるという非常に重要な提案をいただきました。

次の委員の方からは、それぞれの地域地区がやれることをやっていくことが必要であって、行政もそれを支えていくと互いに話し合うことが必要であるとお話をいただきました。地域での地道な活動を行政がしっかり広報していく。広報していくことによってその活動を皆さんが知り参加しようかといった流れが出てくるんじゃないかということでお話をいただきました。また行政そのものがどんな町にしたいのかというまちづくりに対する市としての考えをもっと示していくべきではないかというお話をいただきました。

次の委員の方からは、例えば日田彦山線のような列車を新しくしていくにあたって市民だとか色々な企業だとか自治体だとかそういうとこ

ろがおそらく力を合わせてやっていくということが必要ではないかということをお話をいただきました。猪位金地区で勤勉、努力、協同、自治という民主主義の根本に係わるようなことが、もう既に120年前から言われていることであって、協働という言葉は新しく分かりづらい言葉かもしれないけれども、ベースとしてはずっと前からこの地域で言われてきたことではないかというお話をいただいたと思います。

次の委員の方からは、この市民会議において今日の資料(1)とか資料(2)にあるような、特に資料(2)ですね、色々な審議会で色々なことを取り組んでいるけれども、どこに的を絞ってどうしていくのかといったようなことで疑問をあげていただきました。

これについて私なりにお話をさせていただくと、基本的には協働の対象となるのは、ここに上がっているようなこと全般に渡ることであると、ただ、それぞれの中身は専門性の高い内容ですので、それぞれの審議会で議論されているところですので、この市民会議としてはそうした審議会も含めて協働の仕組みというのを作っていく、考えていく。それを考えていくにあたっては、例えば条例が必要なのかあるいは必要でないのかといったような事とも考えていくということで、具体的な活動内容そのものというよりは仕組みの方の検討ということになるということでございます。

あと最後の委員からは、行政区に入らない人が多いのが非常に問題であって、これの解決が無くては協働のまちづくりというのが進まないという。まさに仕組みの問題ですね。この会議で検討していくようなものだと思いますけれども。

そういったところで非常に重要な問題提起をいただいたというところでございます。

このように協働のまちづくり、今日は皆さんに考えておられることをお話しさせていただいて、当たり前ですけど、何が正解で何が間違っているとかという性質のものではありません。

皆さんの持つておられるイメージと後、今日、委員の皆さん方のお考えをお聞きいただいて、また皆さんなりに色々お考えになられたところがあると思います。先ほども申し上げたように、私とあと事務局の方で今日いただいたご発言については、一定のグルーピングといたしますか、大体こういうふうな事でいただきましたよということで、グルーピングしてどういうことについて意見があったかということについて、分かりやすくまとめて次回ご提示させていただきたいと思っておりますので、それについてさらにこういう視点が必要ではないかとか、そういうふうな事をまたご意見をいただいて、田川で目指す協働のまちづくりとはどういうことなんだろうということを、更に深めていければなというふうに考えております。

大変、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

それでは議題の4番「アンケートについて」を事務局の方からお願いします。

(4) アンケート
について

(事務局)

資料の3をお願いします。田川市協働のまちづくりに関するアンケートにつきまして、実施目的としましては市政やこれからの協働のまちづくりに対する市民の意識と課題を明らかにすることを目的とします。7月上旬に事務局からアンケートの素案を委員の皆様へ送付します。「市民と行政の協働のために何が必要になるのか、それぞれが何をしなければいけないのか」としてアンケートの内容を考えてください。8月予定の会議までにアンケート内容に関する意見をまとめていただき、それに基づきまして会議で検討します。

対象者は、18歳以上の男女1,000名に郵送します。

実施時期は、10月予定の会議でアンケートについて了承をいただければ、11月位に実施します。

(会長)

ありがとうございます。ここに書いてあるとおり、7月上旬に皆さんのお手元に事務局からアンケート調査表の案というのが届きますので、それについて色々ご意見をお考えいただいて次の会議の時に話をいただければという事務局からの提案でございます。

これにつきましてご質問ご意見等はございますか。

(委員)

意見なり要望なりを述べさせていただきます。委員から意見とか考え方等をお聞きしました。

そうする中で市民にアンケートを取る時に、市民が協働のまちづくりというのを、どれだけ認識しているのか私は問題だろうと思います。ついでに、田川市ではこういうまちづくりを目指してこの検討委員会でこういう事を行っているよとか、将来どうあるべきかというのをもうちょっと市民に公募して、先ほどから色々意見が出ていますが、もう少し協働のまちづくりというのを市民に認識してもらって上でアンケートを取るべきではないかなと。

ただ、まちづくりについてお答えくださいだけでは、何のアンケートか分からないまま回答がくるのではないのでしょうか。

(会長)

今のご意見について事務局の方から考えがあればお願いします。

(委員)

例えば協働のまちづくりとは何かとかですね。協働とは何かという意見が委員からも出ている、市民も考えを持っていると思います。

そこら辺を認識してもらった上で皆さんどういうふうに考えていますかと問うた方が、効果が高くなると思います。

(委員)

すみません。関連してですが、現状の認識度も含めてアンケートの中に上がってくるんじゃないかなと思うんですが、どのような文面か私達の所に送られてくる段取りになっていますよね。

色々修正してアンケートが実施できるものなのか、あるいは委員の言うようにこれはその前の段階でこうした方がいいよというふうになるのか。一回送ってきたアンケートを見て考えても、まだ間に合うかなと思います。

(委員)

最初の委員の意見は、今からアンケートの趣旨説明を事務局の方が作る時に、ひとつの方向性を貴重な意見だと思います。対象者が18歳以上の男女1000人になっていますが、今この時点でどういう方を対象に、どういうふうにピックアップしようかと心づもりがあれば教えていただきたいということと、18歳以上と限定した理由は法律に18歳以上を対象にという項目があるのかどうか分かりませんが、もしなければ先ほどご紹介いたしましたように、中学生の発想には柔軟なものがありまして、もう考えきれないんですよ、すごいことを言っているなど。

すごいなと思って、もし年齢の制限がなければ、返ってくるアンケートの回収数は少ないかも知れないけどもしかしたら貴重な意見があるのかもしれない。以上です。

(委員)

サンプルの数として、1000名で回収率がどれくらいかというのが問題になってくると思いますが、アンケートの回答でどれくらい信憑性という意識とか、田川市をはかるにおいて。田川市でアンケートを取る時にどれくらい返ってくるのかを検討いただいて1000名で足りるのかなと、返ってこない結果が多いかなと思ったりもするんですが大丈夫ですかね。

	<p>(会長) 1点目の「協働のイメージというのが、市民にきちんと伝わらなくては、十分なアンケートにならないのではないか」という点について、これは非常に的確なご指摘だと思います。そういった意味では、アンケートの説明資料として協働という言葉を使うかどうかも含めて説明資料を充実させるということで、事務局の方にはお願いします。ただ、充実させるといっても難しい言葉で文章をたくさん作るのではなくて、分かりやすくなおかつ共通認識が回答者の中で持てるような資料ということで、そもそもどういう趣旨のアンケートなのか、あるいは協働という言葉を使うのであればそれはどういうふうなものなのかというのを示すようにしていただければと思います。</p> <p>2点目が、対象者の問題ですね。一つはどういう考えで18歳以上の男女1000名としているのか、その抽出方法は何か、想定される回収率はいくらかというご質問です。これについて事務局から回答をお願いします。</p> <p>(事務局) 18歳以上としましたのは、お渡ししています田川市第5次総合計画でも18歳以上ということでアンケートを取らせていただいたのと同じ年齢で設定したということです。返却率については、希望も込みですが7割程度を期待しています。</p> <p>(会長) 抽出方法は何でしょう。</p> <p>(事務局) 抽出方法は20代、30代、40代というように分けていきまして住民基本台帳から無作為に抽出していきます。</p> <p>(会長) 世代別に分けるんですかね。ということは無作為抽出ではないですね。分かりました。いずれにして住民基本台帳から抽出をしていくということです。これについて、細かくはもう8時を過ぎていますので、次回に議論していくとしてですね、場合によっては、先ほどご提案があった中学生世代に別途アンケートをすとか、そういうことも次回議論していければと思います。あと一つ、単なる個人的な感想ですが、回収率70%はあり得ないと思いますので、そのあたりの精査を事務局にお願いします。その辺は、次回とあるいは10月の会議でも議論できるというスケジュールリングを事務局がいただいていますので、今後議論していければと思います。その他このアンケートにつきましてご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p> <p>(委員) アンケートの回収方法について、校区活性化協議会にお願いするというのが一つの案として思いついたのですが。</p> <p>(委員) まだ、今の段階で校区活性化協議会を利用するというのは早いでしょうか。事務局にある程度任せていいのではないですか。</p> <p>(会長) そのあたり、また必要に応じて次回事務局から案が出た段階で議論するというごをお願いします</p>
その他	<p>それでは、次第のその次に進めさせていただきます。次第の6を事務局の方からお願いします。</p> <p>(事務局) 次回は、2か月後の8月にご連絡差し上げまして日程等通知させていただきますのでよろしくをお願いします。</p>

	<p>(委員) 今回は、宿題はないのですか。</p> <p>(会長) 今回は、アンケートについて考えていただくというのが宿題になります。</p>
閉 会	<p>(会長) それでは以上をもちまして、第2回の田川市協働のまちづくり市民検討会議を終了いたします。どうもありがとうございました。</p> <p>(委員) 基本的に会議の時間というのはどうなっているのですか。</p> <p>(会長) それでは基本2時間ということでお願いしたいと思います。事務局よろしいですか。では以上で終了いたします。</p>